

日本学術会議化学委員会（第24期・第4回）議事要旨

日時： 平成30年8月3日（金） 8:40-9:40

場所： 東北大学 片平キャンパス AIMR 本館 3F TFC Meeting Room

出席者： 相田美砂子、阿尻雅文、加藤昌子、菅原洋子、関根千津、茶谷直人、
所 千晴、中村栄一、

欠席者： 君塚信夫、渡辺芳人、橋本和仁

事務局： なし、

（敬称略）

議題および議事：

1. 前回議事要旨の確認（非公式会議を含む）

本議事要旨文末に記載の内容につき再度議論、確認した。

2. 有機化学分科会会合（5月開催）

- ・ 中村委員が配布資料 1-2 および 1-3 に基づいて説明した。
- ・ 対中国に関しては、一緒に研究する方向としたい。（予算規模等が全く異なるので、勝とうというのではなく、という意味で。政府もそのように舵を切っている。）

3. 「報告」化学分野の参照基準について

- ・ 報告書が仕上がりつつある状況である。
- ・ 今後の指導要領作成に役立てられる予定である。（菅原委員より補足）
- ・ 企業へも、大学卒業者はこれだけ学んだ者であるとのアピールになる。
- ・ ⑪生体関連分子と生化学・分子生物学の基礎：“基礎”は適切ではないと思う。研究の立場からは、むしろ分子生物学の方が基礎である。生体関連分子で止めたらどうか。（相田委員）

→ “生理作用にかかわる化学”、“生命現象にかかわる化学”など、“〇〇にかかわる化学”という表現を検討する。

- ・ ⑩高分子化学の点線部位が長すぎる（細かすぎる）。（中村委員）
- ・ ⑪後半の遺伝子関連の記述を点線にしてはどうか。（菅原委員）
- ・ 点線は不要ではないか（中村委員）→発展内容にも記載しているとし、点線を削除する。（菅原委員）
- ・ P19(2)残念ながら、の文を積極的表現に変更してはどうか。また、通り一辺倒ではない、AI 含めた情報科学に関しても記載してはどうか。（中村委員）
- ・ 査読は進めるとして、化学委員会でも独自に査読し、修正した方がよい。（阿尻委員）
- ・ 各委員に電子ファイルを配布し、委員で見直す。分科会の方には、査読と合わせて考慮してほしいと伝えることとする。（加藤委員長）
- ・ 菅原委員が川合先生のご了解をいただき、各委員に電子ファイルを配布する。
- ・ 本件の作業を進めることを化学委員会として了解した。

3. 化学委員会各分科会合同会議について

- ・ 12/27 に開催する合同分科会で共通する話題に関する講演等を募りたい。
- ・ 中国関係は準備する。JST に確認する。(中村委員)
- ・ AI 関係は、動きが早く陳腐化するので、提言を早めにまとめる。そのまとめを報告してもよい。(阿尻先生)

4. その他

- ・ 10 月 4 日に化学委員会を開催したい。
- ・ 物理化学系では、研究費が集まっている大学では研究が進展しているが、小さい大学では壊滅状態になりつつある。機会均等の立場でおかしいので、提言として出した方がよいと話合ってきた。現在文章にまとめつつある。物理化学だけでなく、他の方にもみていただいて、ほかの視点からの意見も入れたいとの話があり、化学委員会の方で揉んでほしいと思う。分子研のような、国立大学並みの施設があり、他の機関も使える機会が設定されていながら、利用率が低い現状があるが、これは、大学では学生を採られてしまうという思いでなかなか学生を出せないことに起因している。従って、学生だけではなく教員もセットで分子研のような研究機関に出向くことができるようなシステムを提言したいと考えている。化学委員会に出したいと思っているがどうか。
- ・ 中国が伸びているのは予算が大きいこともあるが、論文を書かない人は不要というポリシーがはっきりしている。日本は一旦大学に職を得るとそのまま、というやり方が悪い。日本も、そのような形で、仕事をしないといけないから分子研に行く、となればよい。そういったポリシーとセットでないとうまくいかない。(中村委員)
- ・ 物理化学分科会で提言の完成度をあげ、化学委員会で議論することとしたい。(加藤委員長)
- ・ 旅費が発生しない会議で 1 か月前に申告必須は問題がある。メール審議が OK なことと矛盾する。第 3 部会で問題提起してほしい。(中村委員)

< 1. 前回議事要旨の確認 (非公式会議を含む) 詳細 >

日本学術会議化学委員会 (第 24 期 [非公式]) + 化学企画分科会 (第 24 期 [非公式])

議事要旨

日時： 平成 30 年 5 月 30 日 (水) 11:00-12:15

場所： 分子科学研究所 岡崎コンファレンスセンター 1F 中会議室

出席者： 相田美砂子、阿尻雅文、岡本裕巳、加藤昌子、川合眞紀、君塚信夫、菅原洋子、
関根千津、高原淳、茶谷直人、所 千晴、中村栄一、渡辺芳人

欠席者： 橋本和仁

(敬称略)

議題および議事：

1. 前回議事要旨の確認

修正なく承認された。

2. 分子研所長招聘会議について

- ・加藤委員長が会議のプログラム概要について説明した。(配布資料2)
- ・総合討論は時間が押すので、ベルを鳴らす。
- ・録音をし、記録として残す。

3. 分子研研究会について

- ・5月29日～30日に開催された分子研研究会「化学と」情報科学との融合による新化学創成」に関して阿尻委員が報告した。(配布資料3)
- ・化学と情報科学の融合という観点で、どのようなものをつくるのか、社会との接点、社会実装するときにはどのような形で貢献できるのかを議論してもらった。
- ・研究会と同時に小委員会もかねて行い、今後の進め方も議論した。
- ・化学と情報科学の融合による新化学創成小委員会を立ち上げた。企画分科会の下なので企画分科会の先生はすべて委員登録をさせていただいた。その他に希望された先生が何名かいたので、6月の幹事会で登録する。最終的に提言を出したいと思っている。
- ・相田委員：考えを整理したいが、情報科学の中でAIは一部と理解している。情報科学は以前からあるが、日本学術会議の中ではケモインフォマティクスという名前で分科会ができた。そういう状況下で、とにかく答えがでるからということで何もわからずに取り組んでいる人と、何か科学的な意味づけをしたいと思っている人が存在していて、化学系は後者の部類だが、いずれにしても、考え方に何層かあると思っているが、それで合っているか？
- ・阿尻委員：マテリアルズ・インフォマティクスは、自分の考えてきた道をシェアするツールだと思う。構造物性相関をコンピューターがやってくれる時代になってきて、確かに化学構造と機能の間には相関があるが、これまでは化学構造が記述できなかった。しかし、データがたくさんでくると、中身(相関の科学的な理由、意味付け)がわからなくても相関がわかるようになった。だから、化学構造を再定義する必要がでてきたと思う。
- ・中村委員：AIで特許を取ろうという動きがある。化学構造ではなく、パラメータで権利を抑えようとしている。これは化学者が想像できる化学構造とは表現が違う。従って、化学の素養からはわからないものである。
- ・川合委員：第2部については、今回のシンポジウムをもって公開の意見を募ったこととし、提言提出に進む予定である。
- ・加藤委員長：小委員会では旅費が学術会議より拠出されないなので、今後も開催に工夫が必要である。

4. 第3部夏季部会(8/2、3東北大学)及び化学委員会開催について

- ・夏季部会に合わせて化学委員会を開催する。8/3の昼休みを予定している。

5. 化学委員会各分科会合同会議(12/27学術会議)について

- ・合同会議は12/27に開催予定(終日)。

6. IUPAC 分科会関係

- ・ 2019 年周期律表記念の、日本での会議開催準備に向けて、国際周期表年記念事業検討分科会分科会が設置された（化学委員会と物理委員会の共同分科会）。
- ・ IUPAC 会長が IUPAC 分科会にオブザーバー参加され、国際周期表年記念のクロージング会を日本で開催することを要請された。分科会としては前向きに進めることになった。なお、オープニングは、フランス・パリで開催される。
- ・ IUPAP 分科会と共同主催のシンポジウムを準備している。化学からは巽先生（名古屋大学・化学委員会 IUPAC 分科会・連携会員）が化学の標準変更についての話をされる予定。
- ・ 2018 年 12 月 2 日、22 日、23 日のいずれかに「新しい国際単位系（SI）重さ、電気、温度、そして時間の計測と私たちの暮らし」シンポジウムを開催予定。

7. その他

- ・ 中村委員より、12 月の化学委員会各分科会合同会議の講演について、「中国に対する危機感が無さすぎる。化学も勝てない。化学系の 40 代の人には勝てない。そういう状況を知るべき」との課題提起がなされた。

以上
関根(住友化学)記